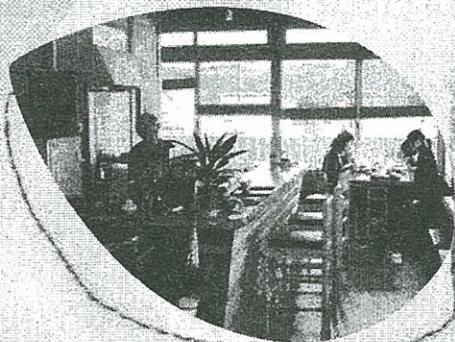




# 地域を元気にしている 活動事例集

伊賀市でコミュニティビジネス  
を展開している3事例を掲載!!



伊賀市・伊賀市社会福祉協議会



## まえがき

伊賀市では、誰もが安心して暮らせるまちにするために、その取り組みの方向性を示した「伊賀市地域福祉計画」を策定しました。この計画に盛り込まれている理念を実現するために、地域の住民や団体、福祉サービス事業者、行政及び社会福祉協議会が中心となり推進を図っています。

地域の課題のひとつに、高齢者や障がいのある方などが経済的・社会的に自立することが挙げられます。この課題を解決する手法として、コミュニティビジネスがあります。これは、地域の課題を地域住民が主体となって、地域の資源を活かし、ビジネスの手法を取り入れながら解決する事業活動を展開することを言います。市民の社会福祉活動を地域再生の柱のひとつに導くことをめざし、本計画ではコミュニティビジネス検討部会を設置し、検討や支援を行ってきました。このコミュニティビジネスが広がれば、今後の地域社会活性化の担い手として大きく期待できます。

このたび、市内でコミュニティビジネスを取り入れた事業展開をしている活動の事例集を作成しました。今後、この事例集が活用され、各地域でのコミュニティビジネスの展開につなげていただければと考えています。

平成21年3月



伊賀市地域福祉計画事務局



第2回「コミュニティビジネスセミナー」

\*\*\* も く じ \*\*\*

- コミュニティビジネスとは ..... 1
- コミュニティビジネス活動事例
  - ① 「子育て&介護」を地域で支える拠点づくり  
特定非営利活動法人ふれあいステーション都美恵 ..... 2
  - ② 地域内外の交流拠点を活かした里づくり  
特定非営利活動法人伊賀・鳥ヶ原おがみさんの会 ..... 6
  - ③ 将来を見据えた、地域の元気を生み出す  
野菜・果物・花市場「ういの丘」  
古山地区住民自治協議会 ..... 10
- 講演記録「地域を元気にすること」  
講師 武田経堂研究所 武田秀一さん ..... 14
- 伊賀市のコミュニティビジネスに関する提言書  
..... 16



## コミュニティビジネスとは？

コミュニティビジネスにはいろいろな定義がありますが、この事業では「地域の課題を、住民が主体となって、地域の資源を活用し、ビジネスの手法により解決していく事業活動」をコミュニティビジネスと位置づけています。

地域コミュニティは、いま、高齢化、少子化、環境保全、リサイクル、防災、防犯などたくさん課題を抱えています。

このような課題は、かつては家族や近所づきあいの中で解決される場合がほとんどでした。しかし、近年はコミュニティの弱体化が言われるとともに、課題にもニートなど次々と新しいものがあられ、かつ、それらの新しい課題は複雑な社会的背景を持ち、一般住民の善意だけでは解決できない場合が多くなってきました。

これらの中には、一義的には行政が解決すべきものも多くありますが、行政は公平・公正な対応が原則であり、個別のきめ細かいニーズには対応できない傾向があります。また、財政の逼迫により事業の見直しが進められなくなっていることは周知の通りです。

行政のほかに地域の企業もコミュニティの重要なセクターですが、景気低迷などで社会貢献も含む活動領域の縮小を余儀なくされています。また、NPOも地域課題解決の活動を行っていますが、ボランティアに依存しすぎると、せっかく有益な活動であっても継続することが困難となる場合が見受けられます。

コミュニティビジネスは、ビジネスの手法によりこれら地域の課題解決を目指していくもので、具体的には地域の住民を中心とした、企業（会社）、NPO、組合などが事業主体となって、生活介護、子育て支援、リサイクル、教育、地域振興などを展開する事業活動を言います。

利益の最大化を目的とした一般企業による事業活動とは一線を画し、地域の課題解決という社会的使命の達成と同時に、事業活動を継続するために必要な、最低限の利益は確保するという2つを目的として行われることが特徴です。



三重県コミュニティビジネス支援サイト  
<http://www.pref.mie.jp/SHINSAN/HP/cb/outline/index.htm>



「子育て & 介護」を地域で支える拠点づくり

地域の居場所づくりへの想い  
ニーズに応じて、拡がって。

事例  
1  
特定非営利活動法人  
ふれあいワテーション  
都美恵

「毎日集まれる居場所づくりを1-3人の仲間と語った夢を」発起人の西村さんは、社協でヘルパーとして勤めながら地域でボランティア活動をしており、「近所でコーヒーでも飲みながら毎日集まる場所があればいいね」と仲間と話していた。そんな頃に、「うちの空家を使って」という申し出があった。時を同じくして、社協から今すぐデイサービスが混んでいるから、その事業を考慮してくれないかと言われたのが介護保険制度が始まる一年前（一九九九年）だった。当時、伊賀町においては、社会福祉協議会のデイサービス一箇所のみが運営されていた。介護保険制度の導入により、通所介護の利用ニーズが高まり、待機者が多く飽和状態が続いていた。介護保険料を納めているのに、受けられるサービスが無い、その状態が続くことに疑問を感じていた。また、離れた地域でサービスを受けると、通所に時間がかかり、負担になるという声があった。

社協を退職した仲間とケアマネジャーもおり、私たちが二人にどれだけ応えられるかわからないけれど、二人で模索した。当初の夢とは少し違ってきた。なという思いもあったが、今一番住民に必要なものがそれであるなら、お手伝いできるところまでさせていただけようと思った。立ち上げ方もよく分からなかった。そこで県に相談に行き、NPO法人があると知った。近隣で一軒だけあったNPO法人のデイを見学したら、普通の家でお風呂も家庭的で、「これやったら私らでもできるかな」と立ち上げた。スタッフで資金を出し合ひ、主婦の感覚でやりくり。最初は不安だった。資金的には何も無いところから、県のNPOの担当や介護保険担当にも相談した。介護基盤人材確保等助成や、民間財団からのNPO法人設立資金助成を受け、あとは発起人で資金を出し合ひて立ち上げた。最初は利用者二人で、スタッフ



の数の方が多くとも楽しかった。だんだん利用者が増え、スタッフもその都度増えていった。そのような活動を続ける中で、町の方から、「社協から子どもさんを一人預かってもらえないかという依頼がある。ここやったら毎日お年寄りさんがいてみんなが見てくれるから、交流ということでお願ひできないか。」と伝えられ、そのお子さんが良いならと引き受けた。おやつを出す手伝いをしたり宿題をしたり、本当の孫のような関係となった。その流れで、PTAから「行政へ学童保育を申請してもなかなか

か認可してもらえない」と相談があり、もう一度行政へ申請したらどうか、などアドバイスをしていった。地域的には必要はないようにも思っていたが、どれだけの人が学童に期待を持っているか地域でアンケートを取った。5名の方が本当に必要なという結果で、PTAが行政に要望し、行政からふれあいステーション都美恵に依頼が来た。それまでに相談も受けていたので、一人でも困っている人がいればNPO団体として何かしなければならぬと考えた。丁度デイサービスが手狭になって移転することもあり、持ち主の快話も得て子育て支援の場所を使わせてもらうことに決めた。その後、1日500円の利用料で市からの指定管理を受けて運営している。皆で支えあひながら、本当に安心して生活ができる地域に介護保険制度が始まってから家族介護ではなく、施設介護が一般化されてきた現状があると感じる。誰もが安心して暮らせる地域にしたいという皆の願ひ

を感じながら、地域の子どもお年寄り・個人は、地域で支えることが理想だと思っている。学童保育においても高齢者デイサービスにおいても、地域との関わりを大切に、毎日の挨拶を心がけるなどコミュニケーションを取ったり防犯効果を促したりしている。

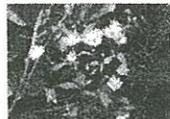
「都美恵」に行つてよかった。「もう一日増やしてほしい」など、利用者から感謝の声を聞いた時に、一番の喜びを感じている。



\*\*\*\*\*  
\*コメント\* NPO法人起業支援ネット事業推進局長 西井勢津子さん  
「当初の想いとはちょっと違うかもしれないけれど、必要とされているならやってみよう」というところ。思いのある方々は自分のやりたいことを提供するんだという気持ちがあるのですね、ビジネスという視点で落ち着いて考えてみたら、やりたい事と必要とされている事、出来る事、この3つが揃つてビジネスが出来ると言われます。

その時求められている事が何かという事を確認する、アンケートを取られたりしながら確認されているところ、大変だった事をさらっと言われるところがすごいです。

また、地域住民のみならず歩み寄つてくれて、関わってくれることも喜びである。自分たちが高齢になった時、皆で支え合ひながら本当に安心して生活ができる、そんな地域にしたい。



1階のデイルームは、6畳と8畳の筒を繋げて広く使用。大幅な改修はしていないが、入り口やトイレ、通路等には手すりや、浴槽にはリフトを設置した。デイサービスでは、介護福祉士の国家資格を持つスタッフ5名により、入浴やリハビリ、生活相談、利用者の身体状況を考えた手作りの食事などのサービスが提供される。



日本家屋に少し手を加え、家庭的な空気で、やさしい普通の暮らしをしていただくことで、精神的安定感が得られるように工夫されている。地域住民が野菜を届けてくれるなど、ご近所付き合いの関係ができています。



元デイサービスとして活用していた家屋で始めた柘植放課後児童クラブ「スマイルキッズ」



子どもたちは宿題をした後、のびのびと遊んで過ごす。お母さんとの情報交換をしながら、地域の子育てを担っている。



手作りのブランコを力強くこいで。手作りの滑り台など、子どもたちは飽きることはない。



